



農作業のススメ

廣戸 健太郎 (春秋会)

1. はじめに

日本弁理士クラブの会員の皆様、こんにちは。パテントカップ運営委員長を務めました、春秋会の廣戸と申します。知財業界初のこのフットサル大会では、各会派の幹事会の皆様に大変ご協力を頂きました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、今回はフットサルからは離れて、私のもう一つの趣味の『週末農作業』について書きたいと思います。皆様は、弁理士試験を終えられて、自由に使えるようになった時間をどのようにお使いでしょうか。私は平成26年に試験を終えて、平成27年4月から農作業を始め、今年で4年目のシーズンを過ごしています。毎年同じようなメニューですので、今年の農作業の活動についてご紹介します。

2. 農場の手配

私は理学部生物学科植物学教室卒業で、光合成の電子伝達系とか、窒素固定細菌の代謝作用とか、植物についての学問的知識はありましたが、実際の植物育成の活動は幼少期まで遡ります。小学生の頃、父親が自宅の近所に市民農園を借り、そこで農作業を半ば強制的に手伝わされておりました。教師だった父親は、手伝いの指示を一切出さず『役に立つと思う仕事を自分で見つけろ!』というのみでした。自分で作業を手伝っているつもりでも『全く役に立たん!』と怒鳴られて、泣きながら自宅に帰った苦い記憶しかありません。

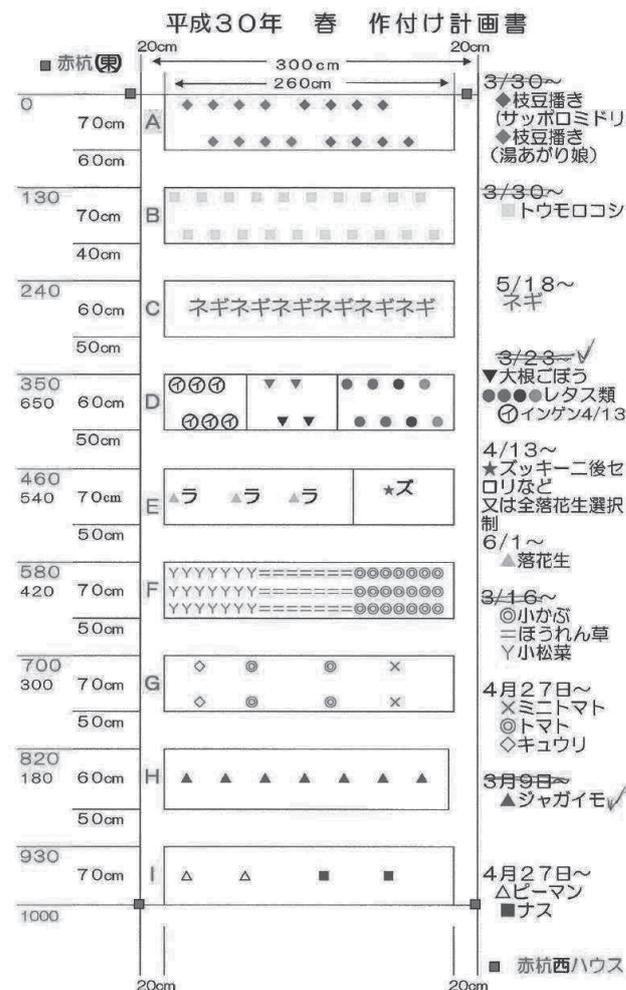
そんな私でしたが、弁理士試験終了後の空いた時間で、自宅から小一時間ほどの場所にある貸農園を見つけ、トラウマを解消すべく農作業を始めました。

この農場は、地元の農家さんの広大な土地を、3m×10mの区分で100個程度に分割し、各区分を年間契約(5万円程度)でお借りします。種・苗や農

機具は農場に農家さんが用意してくれており、自分で用意するのは長靴・手袋程度、毎週講習を行って頂き、農家さんが策定した年間スケジュールに沿って耕作を行っていきます。

3m×10mの農場に9本の畝を作り、各畝に様々な作物を順次植えていきます。では、平成30年の作付けの様子を見てみましょう。

3. 春～夏の作物

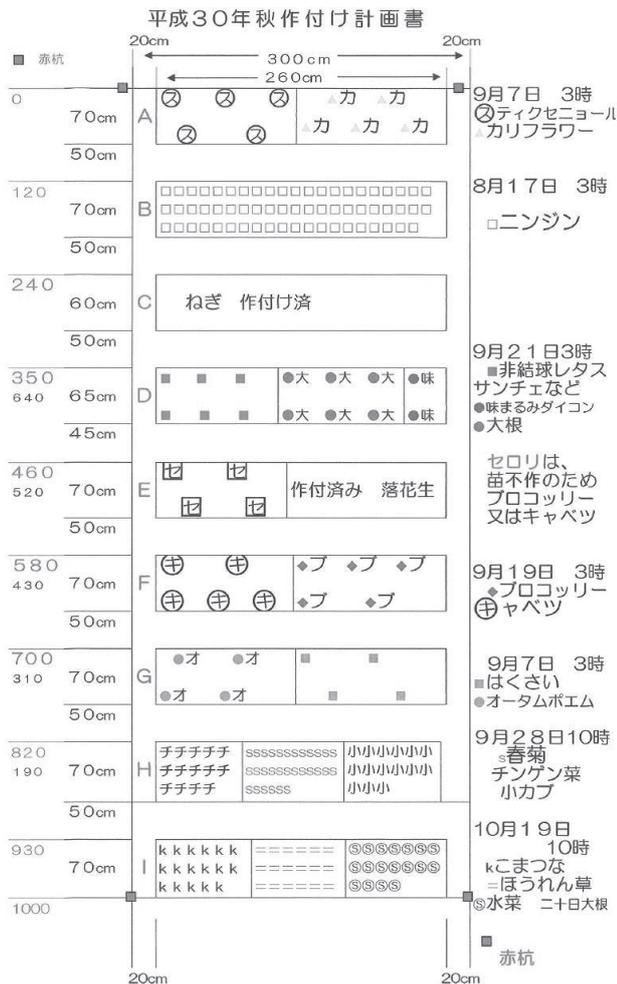


春の収穫は、『小かぶ・ほうれん草・小松菜』から始まり、『大根・レタス類』が続きます。6月頃に『ジャ

『ガイモ』を収穫し、7月からは『枝豆・トウモロコシ』、盛夏期には『トマト・キュウリ・ナス・ピーマン』が食べきれないほど獲れます。初秋に収穫する『落花生』、冬場に収穫する『ネギ』は夏前に作付けします。

私の食生活はとにかくこれらの野菜を食べることが中心で、夏場は毎日トマト・キュウリ・ナス・ピーマン……無限ループ状態です。

4. 秋～冬の作物



秋の作物は、やはり薬物である『小松菜・ほうれん草・水菜・二十日大根』から始まり、続いて『春菊・チンゲン菜・小カブ』、それから『ブロッコリー・白菜・キャベツ・大根』となります。作付けする野菜の中で聞きなれない野菜もありました。

『オータムポエム』は可愛らしい黄色い花を咲かせるアブラナ科の花芽を食べる野菜で、クセがなくほんのり甘みがありお浸しで頂くと美味しいもので

す。

『スティックセニョール』は小さなブロッコリーのような見た目で脇芽が次々伸びる茎の部分と花蕾を食べる野菜です。こうしたスーパーではあまりお目に掛かれない野菜を育てるのも農作業で知った楽しみの一つです。

5. 農作業のメリット

我々弁理士の仕事は、接客以外ですとPCの前に張り付き『脳のイジメ』のような文書作成の毎日です。そんな中、週末の日曜に、毎週1～2時間程度ですが、陽に当たって風を感じ、土に触れることにより、多大な脳のリラックス効果が得られます。

私は一年中日焼けして真っ黒、見た目だけじゃなく、脳も身体も健康的になります。そして現在では、『農作業は最もクリエイティブな人間活動』だと思っています。気候や病気、苗の選択、肥料をあげるタイミング等、農家さんのアドバイスに従って行いますが、収穫に直結する経験値が物言う世界です。

4シーズン目を迎えた今期では、本やインターネットで得た情報を元に、作物に支柱を立てたり、作物を植える量や時期を変えてみたり、肥料をやるタイミングをずらしたりと、少ない経験値を元に創意工夫を楽しんでいます。

6. 終わりに

このような普段使う脳や身体とは全く関係のない、農作業という大変クリエイティブな世界を皆様にご紹介したく、今回の執筆を引き受けました。都心部にお住まいでも、少し郊外に出れば貸農園はありますし、ご自宅の近所に市民農園があれば、ぜひ応募してみてください。今はインターネットで情報がたくさん取れますので、敷居は大変低いです。趣味として皆さんにおススメできます。

ゴルフやワインも良いですが、太古の昔より連続と続く農作業も、皆様の生活に十分な潤いを与える活動となることをお伝えして、この原稿を終えたいと思います。お付き合い有難うございました。

以上

フェルメールの青は秋の空に似て

青木修二郎 (春秋会)

このところ、仕事が忙しく、何かりフレッシュすることがないものかと思っていたところ、上野の森美術館でフェルメール展が開催されているという。あまり美術への見識が深くない私だが、フェルメールの絵画だけは一度この目にしておきたいと思っていた。早速、ネットで状況を調べると、さすが人気度の高いフェルメール展、予約チケットがないと入場すらできない。父が、昔、上野にモナリザが来たときは、相当数の人が詰めかけ、ほとんどその顔すら見えなかったものだよと言っていたが、平成の終わりとなった今では、その反省からか、入場制限をかけ、混乱を避けようとしているらしい。ともかく、三連休の最後は仕事を休み、上野に行ってみようと、急ぎ近所のセブンイレブンで予約チケットを購入する。

10月8日現在は、開催初日が5日なので、4日目ということになるが、それでも、もう入場時間まで制限が掛かっている。前日にチケットを買ったので、朝早い時間帯は買えず、入場時間は午後1時から。それでも、当日は入場許可時間前に上野の駅に到着して、さらに30分も美術館の前で並んだ。

予想通り、館内は人、人、人。今回はフェルメール展と名打っているが、肖像画で有名なハルスをはじめ17世紀のオランダ絵画が集められた展覧会だ。フェルメール以外の作品群も見応えがある。17世紀といえば、日本ではちょうど家康が徳川幕府を開いたころ。江戸時代の日本が鎖国政策など内に向かっているころ、オランダは貿易都市として栄華を極めていたわけだ。東インド会社の繁栄と共に、オランダは世界に進出し、鎖国に向けて進む日本とも貿易関係を結んだほどだった。東京八重洲口の名称の由来となったヤン・ヨーステンは、この時代のオランダ商船の乗組員であった。ヤン・ヨーステン、ヤヨ

ウス、八重洲……昔の人はしゃれっ気があったようだ。一昔前の日本のバブル期のように、当時のオランダは富が集中し、チューリップバブルといわれたが、チューリップ以外にも色々なものが投機の対象となった。

人間、衣食住が足りると、文化の華を咲かそうと思うらしい。17世紀のオランダ人たちは、絵画芸術にその道を見出した。それまでは、歴史や神話、キリスト教を題材とした絵画が主流であったが、富と名声の行き着く果ては自己肯定だ。オランダ人たちは、裕福になった自分たちの生活を絵画のジャンルに加えたのだ。こうしてオランダ絵画に民族画が生まれる。その中でも、フェルメールは、生活の美を探求した画家だった。今回展示されている作品群を見ても、誰かの依頼で作成したというよりは、自身の興味と美への追及が最優先されているように思える。自分勝手な解釈ではあるが。

フェルメールが日本だけでなく、世界的人気が高いのは、その作品数の少なさも関係しているのだろう。諸説あるが、36点というのが通説らしい。しかも、所蔵美術館は、個人蔵を含めて、世界中に散らばっている。オランダはもとより、アメリカ、ドイツ、オーストリア、フランス、イギリス、スコットランド、アイルランドと数を数えると、たった36点なのに、よくぞこれまで散らばったものだと思わせられる。その36点のうち、9点が今回、上野に来たわけだから、展覧会の主催者及びキュレーターの努力は大変なものだったろう。ちなみに、現存するフェルメールの作品が35点というのが今回の展覧会の理解らしい。なぜなら、カタログ用のビニール袋に9/35と数字が印刷されている。まあ、真偽に議論の余地があるということだ。

あるいは、1990年、ボストンにあるイザベラ・ス

チュアート・ガードナー美術館から「合奏」という作品が盗まれたので、その分を差し引いて勘定したのかもしれない。絵に関しては素人の私だが、展覧会をきっかけにいろいろネット検索してみると、面白い。盗まれたフェルメールの作品はこれだけではない。他の作品も、あちこちで幾度か盗まれている。最終的には発見され修復され現在に至っているが、なぜこうも絵画が盗まれるのだろうか。盗難されても、美術館自体に金銭的な損失はない。保険を掛けているから、その保険金の下りるのだ。口の悪い評論家の中には、美術館側の茶番ではないかという人もいと聞く。美しい絵画の裏に有象無象の欲が絡んでいるようで、空恐ろしい気がする。

先だって、サザビーで落札された神出鬼没のアーティスト、バンクシーの作品が、落札と共に額縁に仕掛けられたシュレッダーで半分破られた事件があった。さぞかし、落札者は落胆しているかと思ったが、その事件性で絵の価値がさらに上がるかもしれないと聞いて驚いた。人間の欲とは限りないものらしい。

美術品を投機の対象とする人々はさておき、上野の美術館へ運ばれたフェルメールの絵画は文句なく美しかった。フェルメールといえば、宝石のラピスラズリを粉末にした絵の具で青色を作ったことが有

名だ。当時でも今でも、ラピスラズリは貴重な宝石だから、さぞかしフェルメールは豊かな画家であったに違いない。それとも貿易で無限の富を築き上げた商人たちがスポンサーにいたのだろうか。フェルメールについては、あまり詳しいことがわかっていない。作品の行方や存在も、フェルメールの死後残された遺産目録から明らかになっているだけだ。

それにしても、仕事に追われる毎日から一時解放され、上野の森を散策するのは気持ちが良い。上野というと、子供のころは動物園が楽しみだったが、西洋美術館、都美術館、東京国立博物館、国立科学博物館、そして今回訪れた上野の森美術館と、芸術の宝庫でもある。もちろん音楽に関しては、東京文化会館もある。今回は仕事の合間にあたふたと、ひとりで美術鑑賞と相成ったが、次回は誰か美術の好きな人と一緒に来て、鑑賞後の感想などを語り合えたら面白いだろうと思った。

この日は、台風も過ぎ去り、微風も心地よい秋晴れの上野の森であった。はるかに済んだ空を見上げると、透き通った空の色が、木々の隙間から除いている。フェルメールの青だ。ラピスラズリの青だ。喧噪の中で見たフェルメールの青が、くっきりと私の脳裏によみがえった。

発明の名称： 息を吸いながら「もののけ姫」を歌う方法

松田 真 (稲門弁理士クラブ)

1. 背景

カラオケが趣味である私は、プライベートでお会いする方に、「息を吸いながら、もののけ姫の主題歌が歌えます」と自己紹介することがあります。

大抵は失笑を買って終わりですし、それが自然な流れというものです（達観）。しかし、この自己紹介は全くのウソというわけではなく、息を吸いながら歌うことは、実際に可能です。

従来、カラオケの分野における当業者（要は、ボックスに歌いに来ている人）は、『歌う時には息を吐く』という常識に、長らく縛られてきました。その常識を打ち破る、吸いながら歌う通称『呼吸インバート歌唱法』は、ある意味、画期的な発明であると言えるでしょう。その歌い方のコツを、友人達に口頭で説明したことがあります。しかしどういふわけだか、皆様、実践までには至らないのです。（ヒント：一般常識、羞恥心）嫁にこの事を話したところ、「お前は変な事を言っている」とバツサリ斬られました。

そこで今回、頂いた約3000字という尺をお借りして、私の発明『呼吸インバート歌唱法』の内容について、ご説明させて頂きたいと思います。

2. 息を吸いながら声や音を出す例は実在する

トーク番組で大活躍の、明石家さんま師匠。師匠の笑い方には特徴があります。「ハーッ！」という、いわゆる「引き笑い」は、読者の皆様もイメージ出来るのではないかと思います。あの発声が可能なのであれば、あとはソレに音程をつけてやれば、息を吸いながら歌えるはずだ、と推測がつかます。

いや、そもそも、引き笑いに音程などつけることは可能なのか？

ここで、アコーディオンを思い浮かべていただければと思います。蛇腹のふいごを押し縮める、逆に

伸ばして広げる。いずれの操作でも、音程をつけた演奏が可能です。コレと同様の事を、自らの身体を用いて行えば良いわけです。

3. 人間の声帯

人間の喉には、左右2つのひだ（声帯ひだ）があります。その間を息が通ることによってひだが振動し、音の波が出来ます。この音波が、口（口腔）、鼻（鼻腔）などの空間で、アコースティックギターの箱のように共鳴することで音量が増幅され、外へと出ていきます。これが、声が出る仕組みです。なお、音程の高低は、要は振動数の上下です。ギターの弦をピンと張るのと同様に、振動数を変えています。

4. 音量を諦めれば良い

ここまで来れば、聡明な皆様にはお分かりのことと思います。息を吸いながらでも、声帯ひだを振動させること自体は可能です。ひだに当たる息の方向が逆になるだけのことです。

息を吸う『呼吸インバート歌唱法』の場合、息は鼻と口から入って肺へと向かうため、口腔共鳴、鼻腔共鳴を使いづらくなり、音量が失われるという欠点があります。しかし、カラオケでの用途を考えますと、カラオケボックスの部屋自体は基本的にそれほど大きく無く、また、マイクの使用も可能です。したがって、音量の低下に目をつぶれば（あるいは、耳をふさげば）、歌唱自体は可能です。

なお、プレス（息継ぎ）も、吸う吐くが反転するので、歌の合間に一気に吐ききるのが難しいのですが、テンポの遅い曲を選べば良いのです。

5. 実践を阻む壁

ここまでの説明で、息を吸いながらでも歌が歌え

る事自体は、お分かり頂けたかと思えます。しかし、いざ実践する際には、壁があります。

実践を阻む1番高い壁は、「やるかよ！ そんなくだらない事を！」という心理的なものであるのは、当業者に自明ですが、もう1つの壁があります。

かつて、友人の何人かに『呼吸インバート歌唱法』を試して頂いたことがありました。しかし皆、口をそろえて「息を吸う時にむせてしまって、まともに歌えない」とクレーム（文脈的に「請求項」ではなく一般的な「文句」の意）をつけて来るという、残念な結果となりました。「まあ、難しいよねーあはは」とお茶を濁したりもしましたが、むせる時は大抵、単位時間に息を吸い込む量が多すぎるのです。水道に例えると、蛇口をひねって水を出しすぎ（吸い込みすぎ）という状況です。

6. 壁の突破方法

『心理的な壁』については、羞恥心のスイッチをオフにするなり、小5の頃のメンタル状態に意識を戻す（小5病のアクティブ発症）なりで、適宜突破してください。

『息の吸いすぎでむせてしまう壁』を突破する方法として、エッジボイスの応用を提案致します。

エッジボイスは、『ボーカルフライ』とも呼ばれている、既知の発声法であり、主にボイストレーニングで使われることが多いものです。言葉で表すならば「う"う"う"う"」「あ"あ"あ"あ"」といった感じでしょうか。喉にある左右の声帯ひだを綺麗に閉じてしまって、その隙間から漏れ出すような声です。

映画『呪怨』のような声と言っても良いかもしれませんが。日本人では、平井堅さんが多用しています（ホラー映画ではなく、歌唱における多用）。

なお、エッジボイスの延長線上に、グロウル等のいわゆる『シャウト』技法があるのですが割愛しますので、続きはWEBで！ ヤフーでグーグル検索してください！（無理難題）

相当脱線しましたので、本筋（変な筋）に戻します。上述のように、喉の奥には左右の2つのひだ（声帯ひだ）があります。その間の空間が大きく開いているから、息の流量が多くなり、むせてしまうわけ

です。ですから、エッジボイスの要領で声帯ひだをキュッと『絞め』てやれば、この問題は解決します。

7. オチ

特許庁審査基準に、以下の記載がございます。

第三部 第1章 発明該当性及び産業上の利用可能性（特許法第29条第1項柱書）

2. 1 「発明」に該当しないものの類型

2. 1. 5 技術的思想でないもの

(1) 技能(個人の熟練によって到達し得るものであって、知識として第三者に伝達できる客観性が欠如しているもの)

例1：ボールを指に挟む持ち方とボールの投げ方に特徴を有するフォークボールの投球方法。

私が発明した『呼吸インバート歌唱法』は、技術ではなく技能に属するものであり、仮に私が特許出願したとしても、特許法第29条第1項柱書違反で拒絶の運命にあるようです。とほほー。

8. オチ（その2）

当該原稿の執筆中に想定していたオチは、上記7.です。しかし推敲中に、なんと！ 吸いの技法が既にあることが発覚しました。

（息吸いエッジ）<http://vocalinfo.net/?p=3933>

私の『呼吸インバート歌唱法』は、いわゆる『重複研究・重複投資』に該当するものだったようです。とほほー（その2）。

しかし、次に嫁から「お前はまた変な事を言っている」とバツサリ斬られそうになった時、「それは誤りだ。現に私が考案したのと同様の発声技法が、シャウトの1態様として成立している」と反論出来るようになりました。尻に敷かれ気味な私として、これは大きな進展であると言えます。

息吸いエッジ様、ありがとうございます！

日弁の皆様も、楽しい弁理士ライフをお過ごしくださいませ！

以上

25th Anniversary マジック：ザ・ギャザリング展

徳田雄飛（稲門弁理士クラブ）

1. はじめに

この9月に、トレーディングカードゲーム（TCG）、マジック：ザ・ギャザリング（以下マジック）が25周年という事で記念の展示会をやるらしい、というニュースを耳にした。学生時代にプレイしていた（友人間で遊ぶ程度のカジュアルな付き合い方ではあったが）マジックだが、こういうイベントが行われるのは珍しいことである。今は当時ほど積極的にプレイしているわけではないとはいえ、そういう事ならば、ちょっと見に行こうと思い立った。

事前の情報によると、会場規模に比べると来場者は比較的多いらしい。やや面倒なことにはなりそうではあったが、幸いにも会場がある新宿は比較的アクセスは容易なので、大きな問題にはならないであろう。週末の予定を空けて、会場へと向かうことにした。

2. マジック：ザ・ギャザリングについて

マジック：ザ・ギャザリングは、現在まで1万7千種類以上のカードが作られ、世界中でプレイされている世界初のTCGである。世界初のTCGが後続のTCGより長く続いているということは、他のTCGよりも多くの成功（と失敗）が蓄積され、それを活用してゲーム全体が停滞することなく進化しているということでもある。TCG自体がゲームとしてプレイする場合でも、どのようなカードを用いるかという点で人それぞれの多様な楽しみ方ができるほか、カードそのものを収集することでも楽しめるものだが、マジックはその中でも様々な遊び方、楽しみ方が作り出されているという点でも、他のTCGとはかなり異なる（私も現在は積極的にプレイしていないものの、単発のイベントに参加したり、配信された世界大会を観戦したりといった形で接している）。

日本ではさほどプレイヤー数が多いわけではないのだが、そもそも一般に広く宣伝されていないこと、ルールが整備されている反面やや複雑であり、始めるための敷居が若干高いことが主な要因だろう。

3. 入場まで

雨模様の中、いざ会場についてみると想像以上の人が入り口前に固まっている。どうやら来場者数が多いことから整理券を配り、入場時間を調整しているようである。こちらとしては時間にも余裕があり、昼食をとっていなかったので入場まで時間が空くことは悪いことではない。さっさと整理券だけを受け取り、入場時間まで一旦会場を離れることにした。いろいろ用事を済ませると、ちょうど良い時間になったので会場に戻ると、待機列も短くなっておりあっさりと入場できた。

余談だが、いわゆる「行列ができる店」はこういう時の時間調整には向かない。次回以降は気を付けたい。

4. マジックの歴史

25年という時間は想像以上に長い。

入場すると、まずマジックの歴史を紹介する年表、各種エキスパンション（カードセット）を紹介するコーナーとなっていた。改めて並べられると非常に多くの出来事があると実感する。壁一面を使って紹介されている25年の年表の前は多くの人が立ち止まって、当時の状況を振り返っていた。カードセット紹介のコーナーも足を止めて話し込む姿が見られた。私が見ても、初期の「アラビアンナイト」、「アイスエイジ」の特徴的なアートや、妙に回りくどいテキストは印象に残っているし、カードデザインが改められた「ミラディン」、「神河物語」あたりは私

がマジックを始めたころに重なる。「イニストラード」で初めて作られた両面カード、最新の「ドミナリア」で変更された伝説のカードなど、見た目が変わっているカードも展示されており、懐かしさを感じるものであった。

この他にも、実際のカードを使用した代表的なデッキの展示や、過去の世界大会における名シーンを収録したビデオを背景に、実際に世界大会で使用されたテーブルでゲームをプレイできるスペース等があり、これらにもそれぞれ多くの人が集まっていた（私は1人で見に行ったので、実際にプレイすることはなかったが）。

5. 原画展示スペース

歴史紹介とならび、この展示会のメインといえる展示物のコーナー。「パワー9」と呼ばれる、歴代でも超強力(そして高額)なカードや、「最も貴重なカード」である《Shichifukujin Dragon》等、世界に数えるほどしかない貴重なカードの実物展示から始まり、実際のカードで使用されたイラストの原画の展示が行われていた。原画も含めて貴重なので、この近辺は警備員がつねに監視しているほどであった。特に印象に残ったのはやはり原画だろう。

初期のマジックは現在のようにイラストのデジタル化も進んでいないことから、カードとして印刷される前の原画が存在しているのだが、原価ではイラストの細部まで見えることから、カードからはわからない情報も多く得ることができた。筆のタッチや、塗料の盛り上がり等もはっきりと確認できるほか、特に目玉の一つである《末裔の道》の原画は手書きのイラストの精密さが分かる作品で、実際に見ないとわからない様々な工夫が施されていた（実際に見ないと説明しにくい部分もあるので詳細については調略する）。特に、古い《闇への追放/Dark Banishing》や《闇に住まいし者/Murk Dwellers》のように、はっきりと描かれていないものは、現在のデザインとは異なる味わいがあった。

現在では、世界観を統一する観点から、こういったイラストは採用が難しいと思われるが、振り返ってみるとたまにはこういうイラストも悪くないとも

思う。

6. その他作品展示

原画展示スペースを抜けた先には、何名かのアーティストとのコラボによる映像作品等の展示がされていた。全体から見たボリュームはやや少ないということもあり、細かい部分はやはり省略するが、アニメの他、歴代のカードイラストを組み合わせた作品等があり、マジックの歴史をどのように解釈し、表現するかという点で様々な選択があるものだと実感するものであった。

また、展示場の外では、初心者用講習所兼対戦スペースに隣接する形で、《Black Lotus》のカードイラストをイメージしたオブジェの展示もあった。立ち寄ったときはちょうど暗くなっていたこともあるが、ライトアップされた作品は独特の雰囲気であった。

7. 設定資料展示

展示場の最後には今後の舞台であるラヴニカに関する設定資料等の展示が行われていた。文書については過去に公開されたものも含まれているが、その展示方法は世界観を反映させたものになっていた。文書の一部分が読めないようになっているのだが、その表現があるものは焼け焦げ、あるものは検閲され、あるものは別途料金が必要……、といった形で、世界に存在する各勢力の特徴を表現していた。

その脇では、次に発売されるセットに収録されるカードのプレビューが日替わりで行われており、これからのマジックに触れられるようにもなっていた。

8. さいごに

以上、ざっくりと事実を並べる形式になり、あまり内容を伝えることができなくなってしまったのは残念だが、マジック：ザ・ギャザリング展の内容について紹介した。この原稿は、世界選手権の動画を視聴しつつ執筆しているのだが、この9月末には新セットのプレリリース（発売前イベント）も開催されるので、またプレイしてみようと思いつつ、レポートを終えることにしたい。



東京ゲームショウ2018

早坂光紀 (南甲弁理士クラブ)

1. はじめに

現在勤めている会社がゲームメーカーということもあり、業界動向チェックという名目のもと、東京ゲームショウ2018へ遊び…視察に行ってきました。そのときの体験レポートを綴ろうと思います。

2. 「東京ゲームショウ」とは

東京ゲームショウとは、ゲーム業界各社が新作タイトル等を発表する総合展示会のことです。1996年に第1回が開催されてから、今年で第28回を迎えました。例年9月下旬に4日間を通じて幕張メッセで開催され、最初の2日間(木・金曜日)はビジネスデーとしてゲーム業界関係者やマスコミ関係者のみの公開となり、残りの2日間(土・日曜日)はパブリックデーとして一般向けの公開となります。今年の出展社数は668社、来場者数は29万8690人(いずれも過去最高)を記録し、意外と(?)大規模なイベントです。一言でいうと、ゲームの祭典です。つまり、仕事で来ているといえども、童心に帰って思い切り遊ばなければなりません。お祭りなので。

3. 体験レポート

① 『JUDGE EYES : 死神の遺言』

今年が目玉タイトルの一つである、セガ社の『JUDGE EYES : 死神の遺言』(PS4)を試遊しました。現代の東京を舞台に連続猟奇殺人の謎を追う、本格リーガルサスペンスアクションゲームです。ニュースで大々的に報道されていたのでご存知の先生方もいらっしゃるかもしれませんが、主

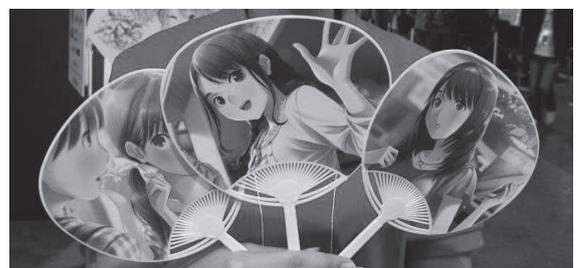


演はなんと、あの「キムタク」こと木村拓哉氏です。さらには中尾彬氏、谷原章介氏、ピエール瀧氏、滝藤賢一氏といった実力派俳優陣も登場する異色のゲームとなっております。私が試遊待機列に並んだときは、なんと90分待ち!某ねずみの国のアトラクション並みです。試遊してみて感じたことは、「やっぱりキムタクって、カッコいい!」。これに尽きます。あのキムタクをゲームで操作できるなんて…。発売日は今年の12月13日とのこと。

② 『ラブプラス EVERY』

続いてコナミ社の『ラブプラス EVERY』(iOS / Android)を試遊しました。こちらは恋愛シミュレーションゲームです。「ラブプラス」シリーズはニンテンドーDS向けのソフトとして人気を博し、今回の新作はスマホ向けとなります。

ちなみに、「恋愛シミュレーションといえばコナミ」と言われたり言われなかったりしますが、あの『ときめきメモリアル』もコナミの作品です。著作権判例百選に「ときめきメモリアル事件」が掲載されていますので、名前だけでも聞いたことのある先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



本題に戻り、試遊待機列に並ぶと3種類ある団扇の中から1つを選ぶように指示されました。これはゲームに登場する3人のヒロインに対応しており、どのヒロインと(ゲーム内で)デートしたいのかの意思表示のためだそうです。私は「小早川凜子」ちゃ

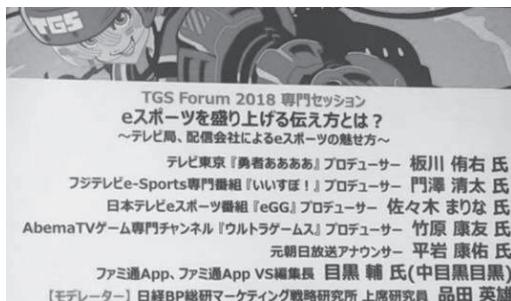
んを選択しました（画像左）。

ゲームの流れは、ヒロインである恋人とデートでどこへ行くのかを決め、デート中にどんなアプローチをするのかをシミュレートしていきます。今回は遊園地にしました。観覧車に乗ったり、帰りに自宅まで送ったりと、存分にデートを楽しみました。この手のゲームは初めてプレイしましたが、結構面白かったです。リリース日は未定とのこと。



③基調講演

ゲームを遊ぶだけが東京ゲームショーではありません。ゲームを学んでこそその東京ゲームショーです。そんな東京ゲームショーの醍醐味の 하나가、この基調講演です。今回は「eスポーツを盛り上げる伝え方とは？～テレビ局、配信会社によるeスポーツの魅せ方～」という講演を聴講してきました。



先生方は「eスポーツ」というものをご存知でしょうか。eスポーツとは「エレクトロニック・スポーツ (electronic sports)」の略称で、複数のプレイヤーで対戦されるコンピュータゲームを広義の「スポーツ・競技」として捉えたものです。実際のスポーツ観戦のように、ゲームプレイヤー同士の対戦を巨大スクリーンに映し出されたものを観客が観戦し応援する、というようなものです。「ゲームなのにスポーツ？」と思うかもしれませんが、ゲームもスポーツなのです。最近では「アジアオリンピック (アジア競技大会)」でメダル種目に正式採用されるなど、注目されている「スポーツ」の一つです。

このeスポーツをどうやって盛り上げていくのか、

テレビ業界関係者が熱い議論を交わしていました。なお、パネリストの方から「ゲーム会社は知的財産権等の権利関係にうるさい。eスポーツを盛り上げるためにもっと柔軟に対応してほしい。」との指摘があり、ドキリとしてしまいました…。

4. 雑感

今年の傾向としてeスポーツ関連の出展が目立ちました。各社のeスポーツ用のイベントブースはどれも盛況でした。業界全体がeスポーツに注力していることが伺えます。

一方で去年は「VR (virtual reality)」関連の出展が目立っていましたが、今年は出展が少なく、やはり『PlayStation VR』等の苦戦によりプラットフォームのハードの普及が進まずVRブームがあまり浸透しなかった影響と予想されます。



5. おわりに

東京ゲームショーは今年で3回目の参加となりました。年々ゲーム業界が盛り上がってきているように感じます。それと同時に、ゲーム業界では特許訴訟も活発化してきております。今回試遊したゲームにも、数多の知的財産権が詰まっています。たかがゲーム、されどゲーム。東京ゲームショーは、ゲーム会社の知財担当者としての使命を見つめ直す良い機会になっています。

以上

地元を離れて。

佐々木香織 (南甲弁理士クラブ)

「千葉県出身です。」

そう答えると、東京に近い千葉を想像するのでしょうか。あまり、田舎の子とは思われませんが、山と海と田畑に囲まれた場所で育ちました。

地元の友人によれば、同じ千葉県にあるはずの「夢の国」は、県内を北上するよりも、アクアラインを通過して海を渡り、東京から向かった方が近いのだそうです。地図アプリで確認すると、なるほど、17キロほどアクアライン経由の方が近いようです。もう何年も行ってないし、この先何年も行かないと思うけれど、衝撃的な事実です。

ここでの生活は高校を卒業するまでと、大学院の研究生時代の数年なので、田舎歴の方がまだ長いです。今日はわたしの地元でのことを少しお話ししたいと思います。

1. 個人情報と引き換えに

わたしの家の周りは住宅がある方でしたが、街灯が少なく日が暮れると真っ暗で、自転車のライトをつけていても、わきの田んぼにうっかり落ちそうになる程でした。そんな暗い道を帰らせるのが心配だった母は、高校3年間駅まで送り迎えをしてくれていました。

この駅は、自動改札もなく、駅員さんが切符を集めるような単線の小さな駅で、乗り遅れそうになっても一生懸命走ると、車掌さんが待っていてくれます。

そんな小さな駅に、この日もやんちゃな先輩たちが何の用事もなくスモークを貼った車で集結しておりました。わたしはいつものように駅から出て、母

の車に乗り込みますが、ある先輩の目に留まります。彼がわたしを探すのは簡単です。降りた駅から対象となる中学校はひとつ、制服から通っている高校はすぐにわかるし、自分の同級生ではないので二学年分を探せばいい。すぐにわたしにたどり着きます。そして、わたしは友人に文字通り売られます。

「先輩が探してるのはかおりだと思ってー、メアド教えておいた。」

「だって、(夢の国の) ペアチケットくれるっていうから。」

わたしの友人は夢の国が大好きでした

2. イオンと週末

週末に遊びに行くところといえばイオンでした。近いわけでもありませんが、そこ以外にプリクラを撮ってクレープを食べる場所がなかったのです。行けば顔見知り会うのも、選択肢がないことの表れでした。

今では、イオンより遠いものの、アウトレットができましたから、そちらへ遊びに行くのかもしれない。しかしながら、ここでも同じことです。多くの友人が働いているのでふらっと行けば馴染みの顔に出くわすわけですから。ちなみに、アウトレットといえども、普段の買い物としては価格帯が高いのか、イオンは健在です。

ところで、みなさんは「ムートン風ブーツ」というものをご存じでしょうか。至る所で購入することができ、もちろんイオンに入っている靴屋さんでも買うことができます。これは数年前に流行り、今では定番化した「ムートンブーツ」が高いため、これ

に似せた「ムートン風ブーツ」がたくさん売られているためです。「ムートン風」なので、暖かくはないでしょうが、見た目はかわいいものです。そもそもファッションアイテムな訳ですから、これでも十分でしょう。

しかしながら、ムートン風ブーツは耐久性に欠けるようです。履きつぶされてペしゃんこになっているそれは、溶けた道路わきの雪のように汚いのです。それにもかかわらず、ペしゃんこの汚いそれを履いた人をよく見かけたものです。かわいく着飾るためのファッションアイテムだったはずなのに。

わたしたちには憧れの先輩がいました。彼女たちは美しく、また、おしゃれでした。同じ地域で育っただけのわたしたちは彼女たちのことを自慢げに話したものです。そんな彼女たちも地元に残り、仕事を心得、結婚し、子供が生まれました。そして、ベビーカーを押して、やっぱりイオンに行くのです。

ムートン風ブーツを履いて

3. 車とは

中学の同窓会のお知らせが届き、気まぐれで「出席」に丸をします。当日、アクアラインを高速バスで向かいますが、道が混んでいて遅刻です。大広間の襖を開けると、すでに多くの同級生が来ていました。地元に残っている人が多く、彼らはよく会っているようで、わたしにいろんな情報を教えてください。だれが結婚・離婚したとか、どこで働いているとか、店を出したとか、横領したとか（笑）。

ところで、ここでは車がないとどこにも行けないので、こんな時、運転手は犠牲になります。かわいそうに思うのですが、飲めなくてもあまり気にしていないようでした。先ほど教えてもらった同級生の店での二次会に向かいます。

俺の車に乗れよ、と声をかけられて目に飛び込んできたのは、重低音が響く車高の低い車です。車内にはブラックライトが取り付けられ、ダッシュボー

ドには白いファーが敷かれています。わたしは、少しめまいがしました。この年になってヤン車に乗るとは。彼は後部座席に乗り込んできた他の友人に向かってこう言います。

「俺の車、乗る用じゃねえから。」

わたしはそんな車に乗せられたのですか。聞けば車の後ろ側が跳ねるようで、後部座席の友人は気持ち悪そうです。ずっと、ここに残っていた人はヤン車を卒業する時期を見失うのでしょうか。

シャコタンとスモークは永遠

4. 郷愁

週末は、泥のように眠ります。色々できたはずの一日をまた寝て過ごしてしまった。友人との約束、美容室の予約、そんなことがなければ起き上がれないわたしは、ひとりでどこかへ行こうという気はこれっぽっちもありません。

そんな出不精のわたしも夏休みや年末年始には実家に帰ります。といっても、実家に場所を移して同じことをするだけです。特に夏は最高です。田舎の家なのであちこち開けると風が通って気持ちのいいこと。この風は、土の匂い、潮の香りがして心地よく、起きていることは困難です。いつもより寝て、いつもより食べるので、毎回、少々まるくなって東京に戻ることにあります。

特に言われなければ寝倒すのですが、母に付き合っってやっぱりイオンに行ったりもします。ちょっと遠いけれど、今は映画館のある大きなイオンができたので、そちらに行くこともあります。

地元の話をする、つい悪口のようにになってしまうのですが決して嫌いなわけではありません。帰ればやっぱり落ち着くので、いつか戻りたくなる日も来るかもしれません。



バビューンと風を切って走る！

坂本 加代子 (PA会)

1. はじめに

私の趣味と言えるものを2つ紹介させていただきます。

2. PA会ランニング同好会

私がランニング同好会に入会したのは2年前でした。当時、私は、子育てが少し楽になって自分の時間ができたことと、弁理士試験勉強中に貯えた脂肪を燃焼させるためジムに通っていました。そんな折、PA会から、「大井競馬場でのリレーマラソンに出場するのに人数が足りない！ 1周でもいいから走りませんか！」というメールが回り、友人の先生に誘われて参加したのがきっかけでした。まあ、1周(1.6km)ならいいか、と思い参加したのです。

(1) ダートを走る

大井競馬場の周辺道路を走っていた私は、大井競馬場に到着、コースを見てびっくり！ えっ、ダート走るの？ そう、私達が走るコースは競走馬が走るダートでした。しかも前日雨が降ったため、コースは少しぬかるんでいました。チーム毎に渡された襷にはチップが付けられていて、自動的に1チームの走行距離が計測されるシステムでした。1チーム5人で21km走るまで当然1周でいいということではなく、結局4周走ることに…。次の日、なぜ、ここ？ というところが筋肉痛でした。

(2) 皇居ラン

その後、私は、半強制的(?)にランニング同好会に入ったものの、徐々に月1回の皇居ランに参加するようになりました。始めは運動不足解消のためと思っていましたが、外の空気を吸って走るのも気持ちがいいものです。桜の季節には、お濠の周りの桜が綺麗で、息苦しさも忘れず。また、仕事、家

庭、子育てという狭い範囲で生活していた私は、ランニング同好会に入ったこと



によって、ランニング後の飲み会や先生方との情報交換も楽しみの一つとなり、徐々に活動範囲も広がっていきました。そうこうしているうち、私は、楽しいことを思い出してしまったのです。

3. 25年振りの大型バイク

あ～またバイク乗りたいな。一旦思い始めたら、どうしても行動に移したくなる性格上、週末、家族に内緒でバイクショップ回りをし始めました。それとなく家族に言ってみるも反対され、一度は諦めかけたものの、「今乗らないでいつ乗るの！ おばあちゃんになっちゃうじゃん！」と思った私は、強行突破することを決意しました。

(1) スポーツタイプ

さて、どのバイクにするか。学生の頃、映画「トップガン」でトム・クルーズが乗っていて人気だったKAWASAKIのGPZ900Rに乗っていました。もう一度、乗りたかったのですが、絶版車であることからメンテナンスの大変さが容易に想像でき、別のメーカーにすることにしました。私には、一つ気になっていたバイクがありました。それはBMWでした。学生の頃、バイクショップでアルバイトをしていたのですが、乗っていた方々が皆さん上手で素敵に見えました。いつか乗れたらいいなあと憧れをもっていました。

そして、試乗した結果、決めました。BMW R1200RSというスポーツタイプに。

(2) 水平対向エンジン

R1200RSというバイクは水平対向2気筒エンジンで動いています。水平対向2気筒エンジンは、1919年にベルサイユ条約によって航空機と航空機用エンジンの製造が禁止されたBMWが、マックス・フリッツという青年をリーダーにモーターサイクル用に開発したエンジンです。シリンダーが走行方向に対して横向きに配置され、ギアボックスはエンジンに直接接続されていて、縦向きに置かれたシャフトで後輪に動力を伝達しています。と、まあ詳しいことは専門サイトに譲り、私が、このバイクを選んだのは、フォームや試乗時のフィーリングはもちろんのこと、営業の方に、「チェーンがないのでメンテナンスが楽」、「ABS、電子制御サスペンション、トラクションコントロールなど安全装備が付いていて女性でも安心」、「水平対向エンジンのおかげでコケても足が挟まれない」、「グリップヒーターがあるので冬でも寒くない」など、主婦が弱い“楽と安心”をアピールされたことも理由の一つでした。

(3) ツーリング

久しぶりに乗るバイクは、少し緊張しましたが、車と違って、太陽の光、海や緑の匂いを直接感じる事ができて爽快でした。ソロツーリングの時は自分のペースで景色を見ながら、マスツーリングの時は皆で写真を撮ったり、食事や休憩中におしゃべりをしたりと、それぞれに楽しみがあります。どちらも私にとっては自由で楽しい時間です。最近、トレーニングに参加した成果か、徐々にワインディングも楽しくなってきました。

(4) バイク雑誌モデル?

ある日、一人で伊豆箱根方面へ向かっていた途中、パーキングエリアで男性に声を掛けられました。ナンパかしら?と思ったら、BikeJin(培俱人)というバイク雑誌の記者の方でした。ヘルメット特集で写真を撮らせて欲しいとのこと。ヘルメットか

いっ!と思いつつも笑顔でOK。その後、出版社から、私一人の特集で出ませんかとお誘いを受け、すごく嬉しくて即OK。25年振りに大型バイクにリターンした女性ということで話題性があつたのでしょ



うか。撮影当日までは、美容室に行き、お肌のお手入れを欠かさず、大事な撮影対象であるバイクを傷だらけにしないように箱入り娘に。当日、編集者、カメラマン、記者の方と待ち合わせをして、ワクワクドキドキで撮影とインタビューが始まりました。普段、特許出願の打合せではインタビューする側ですが、この日は逆の立場。少し不思議で恥ずかしいような思いでインタビューを受けました。先生方からは、「どうせなら弁理士という職業も紹介してもらえ」というお言葉があり、すっかり弁理士業を載せて頂いたものの、その反響はイマイチでした(笑)。まあ、弁理士って何?って言われただけ前進でしょうか。雑誌に載せて頂くなんて滅多に無いことで、リターンして良かった~と思えた出来事でした。

4. おわりに

最近、「バイクの運転は脳の働きを活性化する」ということがわかったそうです。論理的に情報を処理し集中して運転しているからだそうです。そして、ランニングは血行が良くなり美肌効果もあるそうです。私のランニング速度はまだ遅く、バイクのようにバビューンとはいきませんが、バイクとランニング、どちらも心地よい疲れと爽快感を与えてくれます。未永くマイペースで楽しみたいと思います。
ただいまツーリング仲間を募集中! あっ、ランニング同好会も宜しくお願ひします!



将棋とランニングと

廣瀬 隆行 (PA会)

1. 昨年の出来事

弁理士試験に合格してから、気づいたらもう20年になろうとしている。40代も半ばになり、白髪が多くなった。以前のように休みなく働き続けられない。そろそろ老後に備えた生き方をする必要のある時期だ。

昨年、人生を考えさせられることが起きた。人生思い通りにいかないものだ。思い通りいかなかった環境で、最大限幸せを追求したい。

昨年以降、父親と連絡を取ることが多くなった。父は、一人暮らしを大変エンジョイしている。10年程前、父と仲の良かった母が他界した。父は、母を失った後も、生き生きとしている。パークゴルフ、山菜取り、魚釣り、登山、囲碁。80近いのにアクティブだ。

老後についてこう考えた。「頭を使う趣味と、体を動かす趣味を持とう。そうすれば、父のように、老後も楽しく暮らせるのではないか。老いてから趣味を始めても、集団の中の劣等生になる。それでは面白くない。ある集団で、楽しめる居場所を見つけるためには、若いうちから準備していなければならない。そうだ、将来を見据えて行動した者だけが、将来あるポストに就いたときに活躍できるのだ。やるなら老人になる前の今しかない。」

そのような考えから、昨年始めたのが、登山、水泳、マラソンだ。将棋は以前から少し興味を持っていたのでちょうどよかった。

2. 将棋同好会

早速行動せねばと、昨年末から、岩見先生、三宅先生とPA会将棋同好会を立ち上げるようと活動を始めた。将棋同好会は、正式に認可されることを目指して活動中だ。以下同好会と表示するものの、現

時点では非公式の集まりだ。同好会は、私が代表幹事なので、「無理なく、楽しく、気楽に、参加できるときだけ」をモットーにしている。そのため、私に無理がないように(?)、開催されない月もある。

同好会には、既に20名程度のメンバーが集まった。メンバーには、駒の動かし方が分かる程度の方から高段者まで幅広い棋力の者が含まれる。初代代表幹事を拝命したものの、私は、同好会メンバーの中では決して強くない。私の事務所には将棋駒、将棋盤、対局時計が複数セットある。このため私の事務所では対局するときは、費用がかからない。私は、以前から将棋駒を集めていたので、将棋駒たちは、活躍の場ができてうれしそうだ。

将棋は勝負だ。戦なのだ。つまり、武力に勝るものだけが戦に勝つのではない。例えば、制限時間のある対局では、棋力が圧倒的に弱くても、トリッキーな手を使うと、相手を時間切れに導いて勝てたりもする。さらに心理戦も重要だ。今日、コンピュータ将棋が大変便利で手軽になった。相手を目の前にしての対局は、相手の心理をコントロールし、勝負を有利に導くこともできるので、コンピュータ将棋とは別ものだ。対人将棋は相手の心理を捕まえるという意味で、ビジネスにも生かせそうだ。

将棋同好会は、対局だけの活動ではない。将棋飯、将棋にゆかりのある場所への散策、将棋イベントへの参加、女流棋士による指導対決、各種大会への参加なども企画している。

例えば、9月は将棋飯や将棋会館訪問なども企画している。

将棋は礼に始まり、礼に終わる。相手に礼を尽くしたり、お礼を述べたりと、将棋を通して、大事なことを伝えられるように思う。このため、子供向け将棋大会は、いつか是非とも実現したいイベントで

ある。

将棋同好会は、現時点では非公式の集まりではあるが、メンバーになりたいという方は是非、小職まで連絡してほしい。一切の義務はなく、面白そうなイベントの時だけ、声をかけていただければ、大歓迎だ。

3. ランニング同好会とマラソン

羽生竜王は、40後半にも関わらずタイトルホルダーだ。ひふみんこと加藤一二三九段も、80近くまでは現役で頑張られた。

仕事量は減ったものの、幸い、日々の業務は、異常なまでに頭を酷使する。このため、頭脳の老化は、まだそれほど進んでいないだろう。一方、高校1年生で部活を辞めて以来、私は、運動らしい運動をしてこなかった。つまり30年位運動していない。四十肩も患ってしまった。運動できる体を作らねば。その思いからまず始めたのが、登山だった。

PA会のアウトドア同好会に参加させていただいた。その後、仲間を集めて、高尾山、陣馬山、御岳山、筑波山、金時山、宝登山、大山、鋸山など、一時期、毎週のように低山に登った。時折本格的な山にも登った。木々の香りを感じながら、木漏れ日の中、おしゃべりをしつつ体を動かす。心地よい。この時ばかりは、つらいことも気にしなくて済んだ。頻度は減ってしまったものの、今でも1～2か月に一度程度、個人的な仲間達向けの登山イベントを開催している。

昨年、以前勤務していた法律事務所の大先輩に私事で相談したことがあった。その大先輩はトライアスロンをやっている。その先輩を見習って、トライアスロンに興味を持った。ちょうどその頃、PA会のアウトドア同好会のメンバーからランニング同好会のお誘いが来た。善は急げと、ランニングを始めることにした。

ランニング同好会は、毎月皇居を1周しているとのことで、試しに皇居を走ってみた。走れない。たっ

た5kmが走れない。昔から気合と根性だけでは自信があったので、5km位余裕だろうと思っていた。その考えは甘かった。何とか走れるようにしなければ。そう思い、皇居を早歩きで1周する訓練を行った。そして、ランニング同好会に初参加する頃には、皇居1周を走れるようになっていた。ランニング同好会が月に1度なので、トレーニングのため、皇居ランサークルにも加入した。こちらのサークルは、大学生から70歳くらいまで250人程のメンバーがいて、ラインでやり取りをしている。このサークルに加入するために、スマホを（今更）購入したのだ。

皇居ランサークルでは、イベントマラソン、ハーフマラソンやフルマラソンなどの大会に参加募集がかかる。皇居ランを始めて3か月程で、ハーフマラソンに初参加した。これが大間違いだった。15km程度の地点で膝が痛くなった。それにも関わらず、残りを気合と根性で走り続けてしまった。翌日から膝が痛くなり、しばらくまともに走れなかった。

走れない日々の中、膝が痛くなった原因を考えた。柔軟性不足と、足腰の筋肉不足、体幹の筋肉不足、これらが原因だろう。そこで、自宅近くのジムに通い始めた。仕事もあり、理想通りには到底いかないものの、3日に一度程度走る計画を立てた。ジムで走る際は、なるべく下半身をトレーニングして疲れた状況を作る。それから一定速度で60分から90分程度走るのだ。このようなトレーニングをしても、走る速度は一向に向上しない。ただ運動しているという実感は、すごくある。スマホでジムに行った頻度を見ると、1週間に1度か2度しか通えていない。全くジムに通えていない週もある。計画通りには到底いかない。ただ、以前より間違いなく運動している。体が軽くなったという実感もある。

昨年の以降、本当に生活が変わったものである。

なお、出張ついでに参加したシドニーマラソンを何とか完走できた。頑張ってよかったなと思えた瞬間であった。

以上



インド丸ごと旅行記

羽鳥 慎也 (無名会)

1. はじめに

私は日本弁理士会の海外弁理士派遣にて、日本貿易振興機構(JETRO)ニューデリー事務所(インド)に勤務しています。折角インドに住んでいるので、休日はインド国内や近隣諸国を旅行しています。今回は私が旅行したインド国内の中でも印象的であった場所をご紹介します。

2. インド名所ご紹介

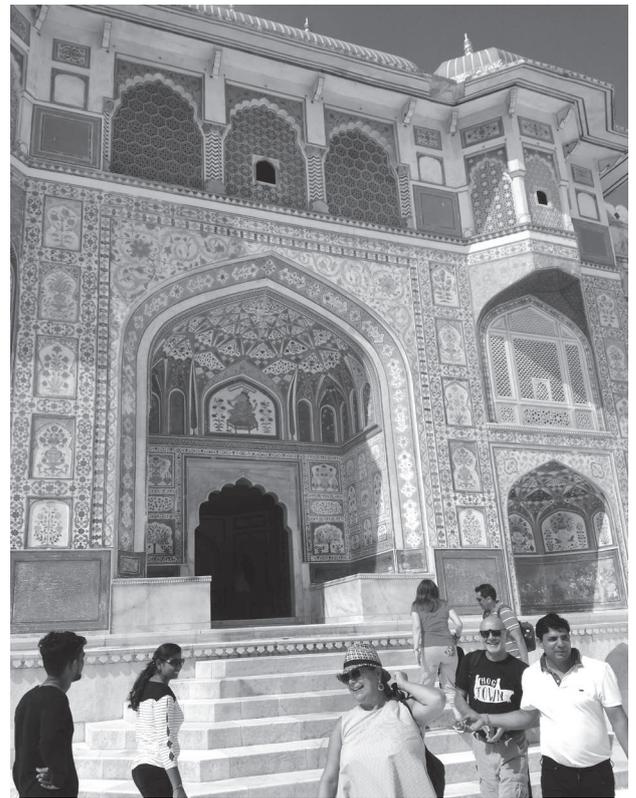
①アグラ

やはり、インドといったら世界遺産のタージ・マハルでしょう。白亜の大理石でできた巨大建築は一目の価値ありだと思います。大扉門と言われるゲートをくぐり抜けた先に見えるタージ・マハルを初めて見た瞬間の感動は忘れられません。



正面から見たタージ・マハル

タージ・マハルはムガル帝国5代皇帝シャー・ジャハーンが亡き最愛の妃ムムターズ・マハルのために建てた墓廟です。実はタージ・マハル裏側の川を挟んだ対岸に、黒い大理石でタージ・マハルと対となる墓廟を建てる予定でした。しかし、財政難のため未完に終わったと言われています。通称「黒タージ」が建設される予定だった場所からは夕日を背景にした美しいタージ・マハルを見ることも出来ますのでお勧めです。



アンベール城のガネーシャ門

②ジャイプール

ジャイプールはデリーから300km程西側にある都市です。この見どころは丘の上に立つ城塞であるアンベール城です。アンベール城にあるガネーシャ門は「世界で一番美しい門」と評され、その評判に恥じない見事なデザインをしています。

また、アンベール城に入るまでの城塞の坂道を象に乗って登ることも出来ます。さながらマハラジャ(インドの王様のこと)気分を味わうことが出来ます。象の体力もありますので午前中までに訪れることをお勧めします。

さらに、ジャイプールは宝石が有名です。町中に宝石店が立ち並ぶので、お気に入りの宝石アクセサリーを探することも良いかもしれませんね。



朝日を浴びながら沐浴をするインド人

③バラナシ

タージ・マハルと同じくインドで有名なものと言えばガンジス川でしょう。ガンジス川の聖地・バラナシに行くと、おそらく大部分の方が想像するTHE・インド(逆3K〈臭い・汚い・危険〉笑)な風景をお楽しみ頂けると思います。

そんなバラナシでもお勧めしたいのは朝日を浴びたガンジス川です。早朝、ボートでガンジス川に繰り出し、朝日を浴びて輝くバラナシの景色はとても神秘的な光景です。

勇気がある方は沐浴にもチャレンジしてみてください。私は手だけ沐浴しました。

④ウダイプール

喧噪としたインドはチョット苦手……という方であれば、ウダイプールをお勧めします。

ウダイプールは湖畔の宮殿都市であり、ホワイト・シティの愛称で親しまれています。

中心街の小さな湖畔の中に浮かぶ宮殿「タージレイクパレス」は、昔マハラジャが住んでいた場所で

すが、今はインド屈指の高級ホテルとして知られています。日が落ちた後のライトアップされた宮殿はインドにいることを忘れてしまうような落ち着いた雰囲気のところとなっています。

⑤ラダック

ラダックはデリーから飛行機で1時間半程のヒマラヤ山脈に近い場所であり、全体の標高が約3500mもある高山地帯です。中でもお勧めは中心都市であるレーから更に車で5時間程揺られた先にあるパンゴン湖という秘境中の秘境です。

パンゴン湖までの道はほとんど整備されておらず、途中、標高5600mの世界一標高の高い車道があるカルドン峠を越えます。ここは雲が下に見える程高く、高山病で途中断念する方もいる程です。

そんな過酷な道中を抜けた先にはこの世のものとは思えない美しい景色が広がっています。標高4250mの山脈に囲まれた中にエメラルドブルーに輝く湖が広がっているのです。ただただ絶景です。また、標高が高いので、驚くほど満点の星空を見ることができます。

間違いなく私の人生の中で行ってよかった場所の1番になりました。

2. 最後に

インドは日本の面積の9倍もありますので、行く場所によって千差万別です。今回紹介した場所はインドのほんの一部であり、行く先々によって様々な発見ができる面白い土地です。皆さんも是非インドへ訪れてみてください。



パンゴン湖の景色

地元のお店を紹介してお茶を濁す話

関 誠 之 (無名会)

はじめに

執筆を仰せつかりましたが、会員だよりのネタになりそうな趣味も特技もないので、地元のお勧めスポットを紹介してお茶を濁したいと思います。

私は、4年ほど前から秋葉原と神田の間あたりに住んでいます。近年の秋葉原は、訪日外国人客がごった返し、ふた昔くらい前に自分が電子部品やゲームソフトを買いに来ていた頃からは多少様子が変わったような気がします。また、飲食店も増え、路上にはメイド喫茶のピラを配るメイドさんだけでなく、忍者、海賊、軍人さんなどが溢れ、とても賑やかです。念のため補足しますと、いずれもコンセプトカフェのチラシを配るコスプレ店員さんであり、本物の忍者、海賊、軍人さんではありません。ほかに、戦国時代やら男の娘やら、簡潔に説明するのは難しそうな、様々なカフェ(?)があります。

秋葉原などで目にする「メイド喫茶」という業態は、もとを辿るとゲームに登場するレストランを再現した、1990年代後半の東京キャラクターショーに出展されたブースだそうで、これが期間限定のお店になり、常設されるようになり、リニューアルされて今日のメイド喫茶の元祖になったのだそうです。そして、現在は、アジアや北米などの海外にも同じような業態のお店があるようです。

また、広域アキバ圏のビジネス&カルチャーニュースを配信する「アキバ経済新聞」(<https://akiba.keizai.biz/>)には、2013年には「メイドカフェで英会話研修講座ー外国人への接客対応・サービス向上目的に」というタイトルの記事があり、2017年には「秋葉原に外国人メイドカフェ 「萌えのグローバル化」目指す」というタイトルの記事がありました。いわゆるメイドさんに特有の言い回しは、ふつうの外国語会話では伝わらず、外国人客をターゲットに

スタッフの語学力を高めたり、ネイティブスタッフによる接客をしたりしているということなのでしょう。そうです！日本の特許事務所を訪れる外国代理人をもてなす場所としても、メイド喫茶は適しているに違いありません！！

そんなわけで、本稿では何軒かメイド喫茶を訪問してみることにいたします。

カフェメイリッシュ (Cafe Mai:lish)

<http://www.mailish.jp/>

パソコンショップのT-ZONEが2002年に始めたメイド喫茶「Mary's」が起源という、老舗のお店です。その後、T-ZONEは廃業してしまい、メイリッシュは事業譲渡を経て存続しているところに、時代の移り変わりを感じさせられます。メイド服だけでなく、様々なコスプレの店員さんがおり、店内はコスプレ文化の小宇宙といえます(制服は、曜日やイベントによって異なる場合があるのでご注意ください)。また、コラボイベントやオリジナルのイベントも積極的に企画されていますが、基本的に落ち着いたメイド喫茶です。

ゲーム発でアニメ化もされた「シュタインズ・ゲート」にメイリッシュがモデルとなったお店が登場し、当時はメイリッシュのメニューにはなかった劇中のオムライスが逆にメイリッシュのメニューに追加されたりもしているようです。せっくなので、今回はオムライスに「日弁」と書いていただきました。

ご覧の通り、被写体は、会報の表紙にしても遜色ない出来栄です！(写真の腕には目をつぶってください。)ただし、萌え成分または中二病成分が多めのオムライスが食べたければ、「日弁」をリクエストしたりせず、お絵描きはお任せした方がよさそう



オムライス（メイリッシュ）
フィギュアは、撮影用にと気を利かせてテーブルに置いてくれたものです。かつて発売されたトレーディングフィギュアにラインナップされていたメイリッシュのメイドさんです

です。

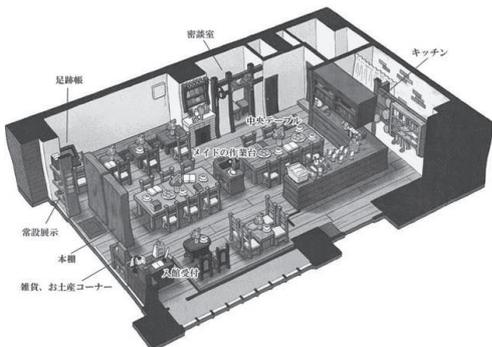
肝心のグローバル化状況リサーチですが、伺ったところによると、英語のメニューは用意しているそうですが、英語研修等はやりたいものの実現していないそうです。

私設図書館カフェ シャツキステ (schatzkiste)

<http://schatz-kiste.net/>

メイドが営む私設図書館というコンセプトで、店内の本棚にはお店のメイドさんが選んだ本や、ボードゲームが並んでいます。制服はロングスカートのクラシカルなメイド服で、とても落ち着いたお店です。

自分があれこれ説明するよりも、ウェブサイトに掲載されている館内図のイラストを見ていただいた方が雰囲気がかわると思い、掲載の了承をいただきました。



館内図 (シャツキステ)

実際の館内も、何かの本の世界に入り込んだような雰囲気に浸ることができます。ちなみに、現在の店舗は、壁の漆喰や床など、全てではないものの内装をお店のメイドさんたちが自作されたのだそうで、オタク的な創作魂を感じます。さらに、ウェブサイトには、上の館内図のほかにもメイドさん自身が描くイラストが充実していたり、他のウェブメディア等でも、お店を舞台にした4コマ漫画や推薦図書の紹介記事などをメイドさんたちが連載していたりもします。また、お店では、ボードゲ（ボードゲーム）部、メイド夜話部等、お客さんが参加できるイベント（部活動）も定期的で開催されています。メイド長のエリスさんが創業者であり、経営も運営もご自身たちで行っているのだそうで、だからこそ、スタッフの特技を事業コンセプトに活かしたお店作りができるのだと思います。

肝心のグローバル化状況リサーチですが、伺ったところによると、簡単な英語の案内書はあるそうです。ただし、基本的には日本語のみでの対応であり、スタッフが可能な範囲で対応しているとのことでした。

おわりに

もう何軒か巡りたかったのですが、ページ数の都合もあるため、このあたりでお終いにします。すべてのメイド喫茶でグローバル化が進んでいるわけではないようですが、上記の2店は、店員さんが歌って踊ったり、お料理に魔法をかけてくれたりはしない、落ち着いたお店です。他にも多くのお店がありますので、機会がありましたら、世界をリードする（のかもしれない）我が国の文化に触れてみてはいかがでしょうか。

なお、外国代理人の接待で利用するのはくれぐれも自己責任でお願いします。